日本一の農業小学校をめざして

長野県須坂市　信州すざか農業小学校

長野県須坂市で開校されている信州すざか農業小学校豊丘校のこの日の授業は稲刈り。四月に開校して今回で十回目の授業となる。子どもたちも農作業に大分馴れたのか、農家先生の指導を受け、八アールほどの水田の稲をノコギリ鎌で刈っていく。刈り取った稲は、稲わらでくくり束にする。なかには、うまく結べないで四苦八苦している子もいる。農家先生はやり直しを命じ、「この指をこう下に持ってきて……」と身ぶり手ぶりを交えて懇切丁寧に教える。稲束を用意されたパイプに干すときも、「稲束をまたがせるときは左右の幅をたがい違いにして」とアドバイスをする。そして落穂拾い。「一つの稲穂には、六百から六百五十粒の籾がついているんだよ」と農家先生。子どもたちは落穂拾いに精を出す。拾い集めた落穂でいくつもの束ができた。最後に、農業小学校の子どもたちが収穫した小麦やジャガイモを具にしたすいとん汁に舌つづみを打つ。その後、集合場所となっている「そのさとホール」までの田舎道を歩いて帰り解散となる。

農業小学校の授業時間は、土曜日の午前九時から十一時三〇分までで、開校回数は

十八回を数える。四月の入学式に始まって、畑の作業では、五月のジャガイモ、トウモロコシの植え付け、八月の収穫、九月に野沢菜、白菜など秋野菜の種まき、田んぼでは、五月の田植えに始まり、除草、今回の稲刈り、さらに脱穀作業へと続く。農閑期の冬でも、竹細工づくり、そば打ち体験、餅つき大会、さらに夏、秋の二回の遠足と実に豊富なプログラムが組まれている。このプログラムも農家先生たちのアイデアでつくられた。参加する子どもたちは、市内の十一の小学校の一年生から六年生までで今年度は五十四名。これに親御さんが加わる。小学校の開校は今年度で二回目となるが、継続して参加する子もいるという。

実を言えば、この農業小学校は三木正夫須坂市長の強い思いから始まった。「自然体験の不足している子どもたちに、農業体験を通じて農業や自然の大切さ、厳しさを体験し、たくましい子に育ってほしい」「大人たちとの交流をはかるなかで、人間形成に役立ててほしい」と。須坂市では農業小学校を引き受けてくれるよう団体や地区に呼びかけたが、豊丘地区の老人会や地域づくり推進委員会などの面々が手をあ

げてくれ、開校の運びとなった。農家先生は、羽生田郁雄校長はじめとして、教頭、畑主任、田主任といった二十五人ほどの先生。ほとんどが地元の人たち。もちろんボランティアでの参加である。また、二十アールの畑や田んぼの休耕地を借り上げた。鍬、鎌、一輪車（ネコ）といった農機具は、新たに買い揃えたものもあるが、一部は農家から不要になった物を寄付として仰いだりもした。

この日の稲刈りには、三木市長も参加した。「今年は出席率が悪く、三回ほどしか出ていない」と笑いながらも、子どもたちに交じって汗を流した。今はモデル校としての豊丘地区だけの開校だが、中学校区単位で、順次増やしていきたいと抱負を語る。

■連絡先　須坂市教育委員会子ども課
TEL　〇二六－二四八－九〇二六
FAX　〇二六－二四八－八八二五
http://www.city.suzaka.nagano.jp/shougai/gakusyuka/nousyo/